

ある音楽史家の試み

1806年のウィーンで、「大ソナタ」と題されたギター曲が出版されました。ギタリストであり音楽史研究者でもあったモリートルの手によるこのソナタは、4楽章から成る堂々たる内容と、16ページに及ぶ長大な序文で異彩を放っています。

序文においてモリートルは、撥弦楽器の歴史を古代エジプトや古代ギリシアの時代から書き起こし、中世の世俗音楽、教会音楽、15世紀以降のリユート属などに触れつつ筆を進め、19世紀初頭に普及しつつあった6弦ギターの魅力、ギター音楽の抱える問題、特に、作曲技法を知らぬギタリストのことなどを述べていきます。そして、「ギターを、より完璧に扱うための試み」として、自らこの「大ソナタ」を書いたことを記し、これをきっかけとして良い作品が生み出される未来を期待しつつ、文章を締めくくっています。

今回の演奏会では、この「大ソナタ」の演奏、併せて、この序文の中で19世紀のギターに近い楽器として紹介されている18世紀のマンドーラ（リユートの一種、ガリコーネとも呼ばれる）のための作品や、モリートルが「より良い演奏や作曲のスタイルを取り入れ始めた地元の音楽家」と評した作曲家の作品も合わせて取り上げます。

～ 昨年演奏会に寄せられた声 ～

井上景さんのコンサートとても良かったです。6コースの古楽器のギターの音色はまるで景さんの語り口や佇まいのようでした。また機会があればぜひ参加したいと思います。

前半の6コース復弦ギター、後半の19cギターはコピーとのことでしたが、何れも素晴らしい音色で演奏に酔いしれ大満足でした。

今回のプログラムは、従来とはまた異なる情趣で聴き手に新たな印象を与えました。復弦6コースと19世紀ギター（オリジナルとコピー）を用いて、有名なカルッリの作品をはじめ、知られざる18～19世紀の作曲家の作品を取り上げ、これらの作品の魅力、独自の透明感のある音色と静かな語り口で余すところなく伝えた。

井上さんの演奏、ほんとに素敵でした。井上さんの楽器への深い愛情、丁寧な演奏。井上さんの丁寧なやさしい演奏を、一音でも聴き逃すまいとする会場の皆さんのやさしさと緊張。何もかもが、やさしさに包まれた素敵な演奏会でした。

井上 景 INOUÉ Kei [19世紀ギター]

クラシックギターを7才より始め、菊池泉氏、鈴木巖氏に師事。名古屋大学在学中より古楽器に興味を持ち、ヴィオラ・ダ・ガンバを平尾雅子氏、アコースティックギターを竹内太郎氏、バロックからロマン派にかけての音楽解釈を宇田川貞夫氏に師事。第16GLC学生ギターコンクール大学生の部3位、第25回神奈川県新人ギタリストオーディション入賞。CD「夕べの歌 ムルツ作品集」をセルシレコードからリリース。浜松市楽器博物館のための録音に参加。名古屋バロック音楽協会会員。

Information

[チケットぴあ]

Pコード：258367

<https://bit.ly/3SSNa94>



[ホームページ・イベント情報]

<https://bit.ly/482j5rZ>



[銀行振込でのお支払い(およびペーパードレス)]

<https://bit.ly/3GczT3s>



電話申し込み

tel. 045-961-0813 (岡田)

メール申し込み

info@viagalleria.or.jp

お問合せ

[メール] info@viagalleria.or.jp [電話] 045-961-0813 岡田 [ホームページ] <http://viagalleria.or.jp/>